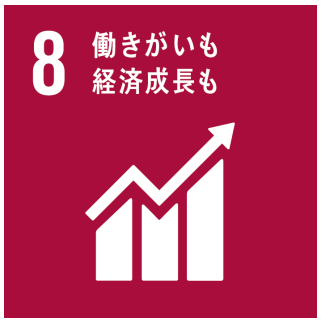
学生×企業　協創プロジェクト

学校給食休止期間の牛乳活用プロジェクト

Cグループ







1．なぜこの企業テーマを選んだのか



身近な存在である牛乳は、時期によって消費量が左右されてしまい、廃棄料が増えてしまうという現状をきいて、酪農家さんを応援できるような取り組みをしたいと考えたからです。また、牛乳を飲みたくなるようなアイディアを考えることで、少しでも食品ロスを減らすことができると思ったからです。



2．プロジェクト概要（現状、課題）

夏休みになると学校給食がなくなり牛乳の消費量が減少しますが、牛から生産される乳の量を調整することは難しく、販売されている牛乳の廃棄につながってしまいます。
セブン-イレブンで手軽に購入できる商品と牛乳を組み合わせたり、牛乳を使ったアレンジレシピを紹介したりすることで、牛乳を飲むきっかけを増やす取り組みを考えました。

3．プロジェクト結果

自分たちが選んだテーマ：
「夏休み期間中の牛乳消費量減少による食品ロスを減らす」

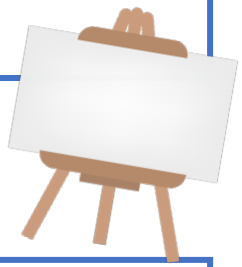


調べたこと・体験したこと：
セブン-イレブンでは食品ロスを減らすために新しい商品を発売したり陳列の方法を工夫するなど、さまざまな取り組みが行われていることを学びました。また、そのまま牛乳を飲むだけでなく、
他の食品と組み合わせることでさまざまな楽しみ方ができることに気づきました。

提案したアイデア：
私たちは、牛乳を使ったアレンジレシピを考え、コルクボードにまとめて紹介しました。
牛乳と身近な食材を使ったレシピをわかりやすく紹介することで、「牛乳を買ってみよう」「このレシピを試してみよう」と思ってもらい、店舗に並んでいる商品との掛け合わせで牛乳の消費につなげることを意識しました。

４．プロジェクトを通じた気づき（現場でわかった課題）

今回のプロジェクトを通して、牛乳の消費を増やすためには、ただ「牛乳を飲もう」と呼びかけるだけではなく、地域の方が「美味しそう」「試してみたい」と思えるような工夫が必要だと感じました。
レシピを考える際には、その場で作れるような材料を使ったり、なるべく少ない材料で手軽に作れる事を意識しました。
コルクボードにまとめる際にも、見た人が興味を持ち、レシピの内容がすぐに分かるように工夫しました。



５．今後の展望

今回のプロジェクトで学んだことを生かし、これからも自分たちにできる食品ロス削減の行動を続けていきたいです。
買い物をするときは必要な量を考えて購入し、商品を購入した際には、今回考えたアレンジレシピなどを活用し、
楽しみながら消費することを心がけます。





6．【挑戦！】企業・地域への提案

私たちは、牛乳の消費促進と酪農家の方々への支援をつなげるために、地域の学校とセブン-イレブンが協力した「牛乳応援活動」を提案します。

例えば、学校の授業や地域のイベントで、酪農家の方から牛乳ができるまでの話を聞いたり、牛乳について学んだりする機会を作ります。
そして、実際に酪農家の方と地域の人が交流できる場を設け、
牛乳について質問したり、酪農の仕事を体験したりすることで、牛乳をより身近に感じてもらえるようにします。

牛乳を「消費する」だけではなく、牛乳を作っている酪農家の方々の仕事や思いを知る機会を増やすことで、牛乳への関心を高め、継続的な消費につなげられるのではないかと考えました。



